『ONE BOOK ONE LIFE』別冊号1986年9月10日第1号発行

ろくおん通信

No. 130

発行日 2003年5月15日
発 行 盲人情報文化センター
録音製作係

聴覚で理解できる録音図書を作るために

久保 洋子

視覚障害者にとって録音図書とは、晴眼者が読む墨字の本と同じです。例えば表紙の破れた本を私たちは買うでしょうか？印刷の不鮮明な本を、文字の不ぞろいな本を買うでしょうか？

◇言いよどみ、発音不明瞭などは印刷の不鮮明な本と同じです。本を見ていると納得してしまうことでも、原本を見ないで聴いて解るようでないと困ります。又、利用者はピッチアップして聴くことが多いので校正の時には細かくチェックしてください。

◇項目の前後、文章の切れ目、会話の切れ目、段落などの間はそれそれ意味のあるものです。極端に長い間や不ぞろいな間は理解を妨げてしまいます。訂正の時には間も含めて前後をしっかり聞き直して下さい。

◇初めの枠、各巻の枠、終わりの枠は、本の表紙のようなものです。枠がきちんとしていない録音図書には信頼がおけません。音声訳者はもちろん、校正者も枠をきちんとチェックすることが必要です。

◇録音図書凡例は、本の内容がまだ解らないうちに聴くものです。本の内容が解らなくても理解できる凡例を考えて下さい。

◇写真や図表などで説明を省略するとき、毎ページのように省略のコメントが入るのは、聴いていると省略だけが気にかかって来ます。録音図書凡例を活用するなど処理の方法を考えて下さい。読み始める前に全体を通しての処理をよく検討して下さい。

◇文章の切り方、続け方を間違えると文意が伝わりません。校正するとき、文字と音声を照らし合わせるだけでは録音図書の校正とは言えません。文意が伝わる読みになっているかを細かくチェックして下さい。

◇音声訳には、アクセントの習得が必要です。すぐに完ぺきにというのは難しいかも知れませんが、意味が正しく伝わらないと思われるときは訂正して下さい。アクセントと共に、無声化、鼻濁音も習得して、よりよい音声訳者を目指しましょう。

以上、思いついたことを並べてみました。この読みで正しく伝わるのかを判断するには、利用者の立場で録音図書を聴いてみることが近道です。グループでお互いに皆のテープを聴く機会を持つのはとてもいい勉強になります。どんな読みが聴きやすいのか、どんな説明は解りにくいのか、いろいろな例があると皆で上達することができます。

下調べ、下読みとお忙しいと思いますが、私たちも耳で読書をしてみましょう。原本を見たくなったらその録音図書はいい本ではないかも知れません。（中味が難しいのは別です。）

校正者は目の前の音声訳者にやさしくするのではなく、利用者に優しい校正を心がけて下さい。

聴覚で理解できる本を作るためには、私たちはもっともっと勉強しなければならないようです。

つづく

読み方についての Q&A

Q 目次や項目に付いている「？」や「！」などの記号は、校正者によって「読むべき」とか「読むべきでない」とかいろいろ指摘をうけるのですが、どういう基準で判断したらいいのでしょうか？。

A 疑問符記号の読み方ではいろいろ混乱もみられます。考え方の基本は、肯定文に付けられている疑問符記号は読みます。（肯定文でも会話や対談などのように読み方や前後の流れでわかるものまで入れるとおかしくなります。前号参照）

あくまでも項目などで肯定文の文章に付けられた記号の時は読むようにしましょう。

本文が疑問文になっているのにあえて疑問符記号まで読むと、文意が逆に正しく伝わらなくなる恐れがあります。文章が疑問文になっているところへ、さらに「疑問符」などと読むことで、「否定の否定」のようにとられて「肯定文？」になってしまうこともあります。

また、文中の項目（大項目・中項目・小項目など）でもいろんな場合がありますので、基本は文章が正しく伝わるかどうかです。

記号を含む文章を書いてある通りに読むことが基本ではなく、記号を含めて表現している文意を正しく音声に変換することが基本です。文章によって読んだり読まなかったりすることになるのはその為です。

Q カッコ内の文章を音を落として読むように言われるのですが？カッコ内は声を下げて読むのが正しいのでしょうか

A レコーディングマニュアルでは「カッコ内の文章はピッチを落として読む」といった事が書かれていましたし、そのような指導をする時期がありました。つまり、カッコ内の文章であることをわからせる（？）ことが処理の基本にあったようです。しかし、これは書き方が問題ではありませんので、ここでも、“カッコ内の文章であることをわからせる”のが目的ではなく、“カッコを含む文章をいかに文意を正しく伝えるか”が基本でなくてはなりません。あくまでも、ピッチを落として読むのは一つの方法であって処理の基本ではありません。ピッチを下げて読んでも意味が正しく伝わらなければ音声訳をしたとはいえません。中にはピッチを下げて読むことで意味が変わって伝わる文章もありますので注意しましょう。

デイジー編集についてのQ&A

Q 最近、目次を階層化して読んだり、何もしないでそのまま読んだりいろいろあるのですが、どういう基準で判断しているのですか。

A 目次は現在、デイジー図書を念頭に、基本的には階層化して読むことにしています。階層化とは、目次の大中小の項目を１、１－１、１－１－１というように項目

の前に付けて読むことです。これは、デイジー図書では簡単に各項目へ移動することができる為です。デイジー図書ではうっかりさわっただけでも簡単に移動してしまいます。番号が付いていないとどこに飛んだかもわからなくなってしまいます。その意味でもどこに飛んでもすぐにわかるように番号をいれることは大切です。

ただ、小説などのようにあまり移動することもなく聞くような作品で、無理に階層化すれば違和感のあるものは、例外的にそのまま読むこともあります。つまり、原則は階層化して読みますが、小説などは例外的に無理に階層化しないで読むこともあります。

第１０回　録音図書製作グループ音訳研究会のご案内

主催：近畿視情協録音製作委員会

第１０回の「音訳研究会」が下記の内容で行なわれます。今回は、毎日新聞大阪社会事業団が主催しますボランティアセミナー「録音図書の質的向上をめざして」(講師 川上正信氏)に合わせて開催されます。

講演の終了後、簡単なグループリーダーの交流・懇談も予定されていますので、できるだけグループリーダーの方が参加して頂きますようお願いします。

記

日　程：　２００３年7月１６日（水）
　　１３：３０～１６：００
場　所：　盲人情報文化センター　９Ｆホール
費　用：　資料代　３００円
定　員：　６０名（先着順です）
　　＊定員を超えた場合はお断りの連絡をさせていただきます。
人数制限：　グループリーダーを含めて１館（２～３名まで）
内　容：１．13:30～15:30
　　講演　　録音図書の質的向上を求めて
　　講師　　川上正信氏（横浜市立中央図書館）

２．15:30～16:00
・グループの交流・懇談
・次回の日程と内容の確認

※参加者は、図書館に所属するグループは図書を通して、どこにも属していないグループは盲人情報文化センターまで、
①氏名　②グループ名　③電話番号を記入の上、
ファックスでご連絡下さい。
（FAX　０６－６４４１－００３９）

２００３年度・第１６回専門音訳講習会・パソコンコース実施要項

主催：毎日新聞大阪社会事業団
後援：社会福祉法人日本ライトハウス
盲人情報文化センター

１．趣旨　学術・専門資料の点訳・音訳に対するニーズは、視覚障害者の高学歴化、職業・趣味の多様化、コンピュータや東洋医学といった専門知識への関心の高まりに伴い、年々、増加する一方である。

この講習会は、近畿在住のボランティアを対象に、こうした高度な点訳・音訳の依頼に応えられる専門知識と技術の講習を行う。
講習修了後は、盲人情報文化センターを拠点として、修了者の研修、情報交換などを進め、専門点訳・音訳サービスの充実を図る。

２．講習内容

講習会名	専門音訳講習会・パソコンコース（基礎編）
内　容	パソコン関係書籍・雑誌を音訳する場合の初歩的、基本的な知識を学びます。なお修了後、さらにパソコン関係資料の音訳活動に興味のある方で、講習会講師の推薦がある方については当センターで活動中の専門音訳パソコンチームに参加していただくことができます。
日　程	２００３年6月１０日(火)～7月8日(火) 毎週火曜日午後１時００分～３時００分・全５回 ＊6月３日(火)に適性テストを行います。
講　師	中本和代氏（近畿視情協パソコン音訳チームリーダー）
定　員	１０名
資　格	音訳活動をしている録音ボランティアで、パソコンに興味があり、既にメールを利用している方
申込方法	申込用紙を提出（適性テストがあります）
申込締切	２００３年5月３１日（土）

◆なお、今年度は、この後、 専門音訳古典コース（２００４年１月開講予定）を開催する予定です。

３．受講料　1,000円（全5回分）

４．申込先　社会福祉法人日本ライトハウス盲人情報文化センター
専門音訳講習会パソコンコース係
〒５５０－０００２　大阪市西区江戸堀１－１３－２
ＴＥＬ ０６－６４４１－００１５
ＦＡＸ ０６－６４４１－００３９

利用者から製作依頼を受けている原本

『森田正馬が語る森田療法』岩田真理　著　<医学>
『月刊密教講座　第1巻　第1号』　木下　厚　編　<宗教>
『月刊密教講座　第1巻　第2号』　木下　厚　編　<宗教>
『障害者問題研究』障害者問題研究編集委員会編　<社会福祉>
『新・良妻賢母のすすめ』　ヘレン・アンデリン著　岡喜代子訳<人生訓>
『イチローのメンタル』豊田　一成著　<スポーツ>

→引き受けていただいたグループ

『人間の永遠の探求　ﾊﾟﾗﾏﾊﾝｻ･ﾕｶﾞﾅﾝﾀﾞ講話集』　ICCB
『教会と現代社会　神学　』　近畿視情協英語ﾁｰﾑ
『できる入門ワード』<ワープロ>　近畿視情協ﾊﾟｿｺﾝﾁｰﾑ
『電池がきれるまで』<障害児教育>　グループポッポ

第1回
プライベート（リクエスト）製作チームの勉強会のご案内

この度、音訳グループや個人で当センターのプライベート製作やリクエスト製作にご協力を頂いています方、またはこれからプライベート製作を手がけたいと考えておられる方を対象に「勉強会」を行うことになりました。
第1回目の勉強会は、①プライベート（リクエスト）製作についての話、②家庭録音技術（カセットデッキ使用）の話を中心に行います。
この勉強会に参加を希望される方は、盲人情報文化センターの、磐井または清水までお申し込みください。

日　時：　２００３年6月２５日（水）
　　１３：００～１６：００
場　所：　盲人情報文化センター
テーマ：　①プライベートサービスについて（磐井）
　　②家庭録音技術について　　（清水）
　　③情報交換・交流
　　④次回日程等